

1. 研究課題名：

リテラシー向上を目指した市民の震災後の
環境リスクの認知構造とその変化に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

村山留美子（京都大学工学研究科）

3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

日本においては、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故の発生以降、放射性物質などを含む様々な環境リスクに関する問題を抱えている。今後、市民はこれまで直面したことのない多くのリスクについて判断を行わなければならない、その判断に対しては、市民の現状の認知を考慮した上でリテラシーの向上を諮ること、また市民へのより適切なリスクコミュニケーションの方策について考慮することが必要になると思われる。

本課題では震災後の日本人のリスク認知の現状と、震災による認知の変化およびその変化要件に関する調査を行って基礎資料を作成し、今後のリスクリテラシー向上やより適切なコミュニケーションに関わる方策について提言を行う。

5. 研究項目及び実施体制

- ①リテラシー向上に資する提言作成のための市民のリスク認知に関する調査研究
（京都大学）
- ②最新のリスク認知に関する知見とリテラシー向上に資する情報の検討
（（財）ルイ・パストゥール医学研究センター）
- ③震災後の環境リスクの社会的なあり方の現状についての解析
（公立大学法人大阪府立大学工業高等専門学校）
- ④市民の震災後の環境リスク認知の構造とその変化に関する調査と解析
（学校法人武庫川学院武庫川女子大学）

6. 研究のイメージ

2011年3月の東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故の発生以降、放射性物質などを含む様々な環境リスクに関する問題を抱えている。

市民は、これまで直面したことのない多くの環境リスクについて判断を行わなければならない



リスク管理者は、市民に理解しやすいような「環境リスク」に関する情報発信やコミュニケーションを行っていかなければならない

人々の判断を助けるために必要なリテラシーの向上や、リスクコミュニケーション手法とはどのようなものか？

